

Brief Letter ^{+AGIH}

Vol. 42 JUNE 2009

特集

「常に地域とともに歩む 病院でありたい」

マロニエに込めた、秋本病院の思いです

We always hope to contribute community welfare.

2009 nakasyan

夏夜の2時間 巻頭エッセイ

「夏至の日の手足明るく目覚めけり（岡本眞）」
梅雨の合間に届く陽射しの強さに、夏を感じる季節になりました。手足を存分にのばし外遊びに興じる充実感をはらんだ冒頭句の季語は「夏至」。日本を含む北半球では昼が最も長く、夜が最も短い日にあたります。それにしても、わずか17文字で季節を描く俳句をはじめ、時節に応じて装いを替える衣替えしかしり、走りから旬へと変化する食材の持ち味を活かした和食しかしり。四季のある日本に暮らす私たちは、「季節を愉しむ暮らしの達人」なのかもしれません。

ということで、「100万人のキャンドルナイト」。
2001年にカナダで始まった自主停電運動は、日本では「夏至と冬至をきっかけに電気を消し、キャンドルを灯してゆったりと過ごそう」というスローな呼びかけに姿を変え、大きく広がっています。参加はいたって簡単で、夏至前夜の6月20日から7月7日の夜8時から10時までの2時間、電気を消して過ごすだけ。絵本を読む、食事をする、語り合う……などなど、キャンドルを灯して何をするかは自分次第です。

夜の暗さを思い出すこと。ひとりの時間を満喫すること。誰かと過ごす幸せを感じること。そして、遠いけれどつながっている世界に想いをはせること。夏の夜をきっかけにいつたい何がみつかるでしょうか。



医療法人 AGIH 秋本病院

本誌は、秋本病院と患者さん、そして地域をつなぐコミュニケーション誌です。
ご自由にお持ち帰りください。

「常に地域とともに歩む
病院でありたい」

西通りとともに育つ マロニエの物語

毎年ゴールデンウイークのころ、秋本病院の前にそびえる大木が鮮やかなピンク色の花をつける姿にお気づきの方も多いらっしゃるのではないでしようか。当院のシンボルツリーであるこの木の名は

そこで天神西通り発展期成会の会長を務めていた秋本徹院長（現・理事長）がパリのシャンゼリゼ通りを飾るマロニエ工並木の美しさを語つたところ共感を呼び、また「日本ではなじみの薄い木であること」も新鮮」という理由から、マロニエの植樹が決まったのです。

を受け止め協力してくださった地域社会の包容力があつたからこそ、この理念を実現することができたのです。昭和から平成へと50余年にわたつて多くの方と手を携え歩んできた日々に感謝し、これからも地域に貢献できる病院であり続けられるよう職員一同努力していきたいと思

マロニエといえば白い花が一般的で、西通りにあるようなピンクの花は珍しいのだと。福岡ではゴールデンウイークの頃に開花し、10月に入るとクリによく似たかわいらしさ実をつけて街ゆく人を楽しませてくれます。

マローニーHのように地域に貢献する病院でありたい

秋本病院の理念の第一は、「専門

して変わりません。と同時に、「地域社会とともにありたい」という私たちの思い



平成21年5月に開花した秋本病院前のマロニエ。
(撮影:秋本徹)

気軽に声をかけてください

秋本病院の思いを引き継ぐ NEW FACE



消化器内視鏡センター長
永本 和洋

ながもと かずひろ

平成9年 福岡大学医学部卒業、同年 福岡大学筑紫病院 消化器科入局、平成14年 医療法人恵隆会 益川医院勤務を経て 平成21年4月より現職。日本内科学会会員、日本消化器内視鏡学会会員、日本医師会認定産業医。



2009年4月に秋本病院に参りました。専門は内科・消化器科で、中でも内視鏡検査が得意です。当院の魅力は、施設が新しく検査機器が充実していること。加えて地域に密着した診療を行っており、慢性疾患の方をじっくりと診療できる点にもやりがいを感じています。家庭では小学校と幼稚園に通う息子たちの父親で、紅一点の妻と4人家族です。趣味はスポーツ観戦で、野球から相撲までジャンルは問わず。ヤフードームにはすでに何度か足を運びましたが、福岡にはサッカーやバスケットボールのプロチームもありますから、これからどんどん応援に行こうと思っています。公私ともに充実するよう努力して参りますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

最初に植えられた1本は、岩田屋本館と西日本シティ銀行大名支店の間にあります。天神の中心部とあって木陰で一休みする人が絶えません。



ホブス 智恵子
ちえこ

看護課・一般病棟看護師

4月に山口県から引っ越しました。まだまだいろいろなことが新鮮に感じられます。職場では不安や緊張感でいっぱいですが、その一方で新しいことを学ぶ楽しさもあります。一日も早く戦力になれるように頑張りますので、皆さん、どうぞよろしくお願ひいたします。



永田 奈津子
ながた なつこ

看護課・緩和ケアセンター看護師

3月から緩和ケアセンターに勤務しています。趣味は旅行で、老後は海外の田舎でスローライフ、というのが私の大きな夢です。仕事においては、将来的には緩和ケアで役に立つ専門的な資格が取れたらいいなと思っています。皆さん、どうぞよろしくお願ひいたします。



岡部 裕美
おかべ ひろみ

看護課・一般病棟看護師

3月まで長崎の病院に勤務しており、5月に入職しました。4月に福岡へ引っ越したばかりで土地勘もなく、道を一本歩き覚えるだけでも幸福を感じる日々です。一日も早く業務に慣れ、先輩方から多くのことを吸収し、患者さんの心に寄り添った手厚い看護実践に努めて参りたいと思います。よろしくお願ひいたします。



加藤 学
かとう まなぶ

総務課・医療事務

4月より総務課にお世話になっています。3月までは市内の別の病院で、同じく医療事務の仕事を約4年半やっていました。これまでの経験を糧に新しい環境の中で実務経験を重ね、医療事務としての能力・専門知識の向上、そして何より人としてさらに成長することができればと思っています。よろしくお願ひいたします。



向江 正博
むこえ まさひろ

放射線課・診療放射線技師

5月より勤務しております「むこえ」です。この名字が珍しいのか、よく「どこの方?」と質問を受けますが、生まれも育ちも福岡です。趣味はドライブとスポーツ観戦で洗車も大好き!時間があったり天気が良ければドライブに出かけます。お酒も好きで、ほぼ何でもOK。お付き合いのお酒も好きなので気軽に誘ってくださいね。



平野 千恵子
ひらの ちえこ

看護課・看護助手

この3月から看護助手として働くことになりました。以前は地元の大分で福祉の仕事をしており、看護助手の仕事をするのは初めてです。まだまだ慣れないこともありますが、明るく元気に頑張っていきたいと思っています。どうぞよろしくお願ひいたします。



平成19年2月、芙蓉ライオンズクラブの協力により植樹を行いました。秋本徹に代わって妻の幸子(写真中央)が出席しました。



きらめき通りのマロンニエの街路樹。都心の貴重なグリーンとして、行き交う人々を癒しています。

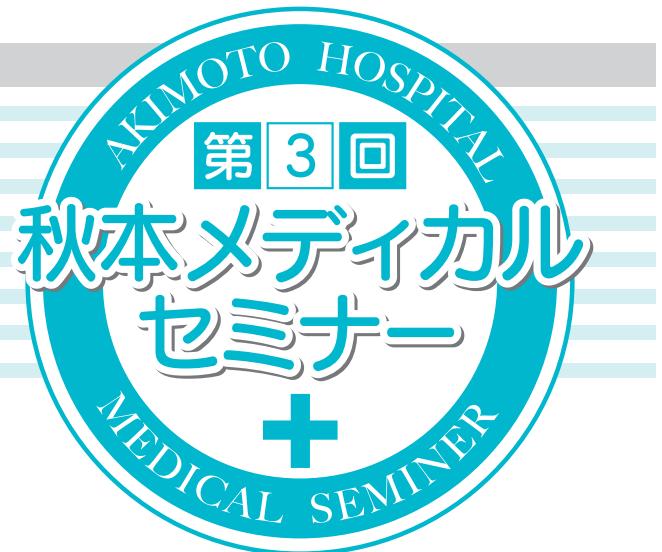
緩和ケアについて学ぶ メディカルセミナーを開催しました 2009年3月14日（土）

禁煙やメタボ健診の話題に始まり健康管理の重要性を学んだ1回目、そして内視鏡をテーマに最新の検査システムや胃腸の疾患について学んだ2回目と続いてきた秋本メディカルセミナー。3回目のテーマは緩和ケアです。

ここ数年で緩和ケア（ホスピスケア）という言葉はずいぶん身近になったものの、その理解はさほど進んでいないという現実があります。その点をふまえて、がんを患った家族をホスピスで看取ったご家族の映像を冒頭で視聴し、その後に緩和ケアセンター長の永山淳医師から「緩和ケアの手法と意味」「緩和ケアがめざすもの」などの説明が行われました。

これまでの医療は治療を目的としたものでしたが、それだけでは、心身の苦痛により人間らしい生活がおびやかされている患者さんの苦しみを取り除けない場合があること。患者さんが抱える身体的、精神的、社会的、そしてスピリチュアルな痛みを緩和するために、ホスピスでは全人的ケアを重視していること。また患者さんが望まれる最期の過ごし方や抱える苦痛や悩みはそれぞれ異なるためチーム医療が不可欠なことなどが語られました。そのほか日本では末期がんの患者さんに用いられている緩和ケアが欧米では早期がんやその他の疾病に対しても広く行われていることなど緩和ケアの可能性を示唆する内容もあり、参加者の皆さんには真剣に耳を傾けておられました。

講話の後は、ホスピスの実態を知っていただくための見学会を実施。個室や共用部分を実際に見てふれて確認することで「ホスピスで過ごす時間を想像できました」という声も聞かれ、案内したスタッフも、緩和ケアへの理解が進んだ喜びを感じることができました。



必要を感じて見学に来られた方から連携している医療機関にお勤めの方まで、皆さんそれぞれの立場で熱心に学ばれていました。



「私はこんなに広くなくともよさそう」「お客様が多ければ、このくらい欲しいかな」。部屋選びは、自分らしい暮らしを考えることでもあります。

第4回 秋本メディカルセミナーのご案内

秋本メディカルセミナーは、健康や病気について地域の皆さんと一緒に考え、秋本病院をよく知っていただきたいという思いから、秋本病院企画委員会が実施しています。次回は「救急救命講習会」を行います。日時などの詳細は、院内ポスターやHPなどで随時お知らせして参ります。今後のセミナーで取り上げて欲しいテーマなどありましたらお気軽にお聞かせください。

救急救命講習会 無料

- 内容 福岡市消防局の救急救命士の皆さんを講師に迎え、人工呼吸法、心臓マッサージ法、AED(自動体外式除細動器)の扱い方など救急救命の基本を学びます。
- 日時 2009年6月27日(土) 14時～16時(予定)
- 場所 秋本病院 2階待合ロビー
- 定員 30名(先着順・要予約)
- 協力 福岡市消防局

お問い合わせ・ご予約 ☎092-771-6361 (9時～17時)

緩和ケア病棟だより ボランティア募集しています

スタッフの皆さんの熱意に支えられ、緩和ケアセンターのボランティア活動が日を追うごとに充実してきました。なかでも人気の高いマッサージを担当しているのは、セラピューティックケア等の資格を持ち、ふだんは医療機関に勤務している富永智子さん。「40代になったのをきっかけに少しでも社会貢献ができる」と考え、昨年秋からホスピスボランティアを始めました。患者さんの体にじかに触れるマッサージは心身ともに癒し効果も大きいのでしょうか、「施術の後は夜もよく眠れる」と次回を待ち望む患者さんもおられるほどです。

「月に1~2回のボランティアで、たくさんのこと学んでいます」とおっしゃる富永さん。「一緒に活動する仲間がもっと増えるといいですね。私も長く続けるつもりです」と抱負を語ってくれました。

当院ホスピスではボランティアの協力により、マッサージの他にティーサービス、買い物代行、アロマセラピーなどのサービスを行っています。活動に興味のある方は、医療ソーシャルワーカーの内田までお気軽にご連絡ください。



まずは看護婦と打ち合わせ。「○号室の☆☆さんから依頼がきますよ」



「このくらい大丈夫ですか?」「いい気持ち。もっと強くてもいいかな」。気持ちのよさに途中で寝てしまう患者さんが多いため、力加減は最初に確認します。



マッサージは足からスタート。指一本一本まで丁寧にもみほぐします。ちなみに内容は患者さんの様子を見て決めます。体がほぐれるにつれて患者さんもリラックス。おしゃべりもはずみます。



福岡市近郊には12もの緩和ケア病棟があり、これは全国的に見ても施設数・病床数ともに飛び抜けた数です。私たち秋本病院緩和ケアセンターは、認可されてまもなく2年という比較的新しい施設です。この間に200名超の患者さんがお越しになりました。振り返りの意味を込めてカルテを見ると、薬院・平尾・警固・今泉・赤坂・桜坂・小笹……と中央区の患者さんがもつとも多く、次いで少し離れた春日や大野城、二日市など西鉄沿線からの患者さんも多くおられます。

前述のように多数の緩和ケア施設が存在する福岡地区ですが、その多くは郊外にあり、中心地には2、3を数えるのみです。緩和ケア病棟での生活をお考への場合、「自宅から近く慣れ親しみだ環境で過ごしたい」「家族や友人などまわりの方が気兼ねなく来られる場所がいい」などの気持ちが働くのは当然だと思います。人によっては、静かな郊外よりも賑やかな場所が好き、と言われるかもしれません。実際、「体調がいいときは天神のデパートに買い物に行きたいの、それがわたしの生き甲斐だから」とおっしゃった患者さんもおられました。

また自宅で療養されながら緩和ケア外来に通われる患者さんもおられます。幸い病院からさほど遠くないところに西鉄電車や地下鉄の駅があり、バス停も病院のすぐ前です（街なかのため駐車場が確保できないという欠点はあります）。外来への通院がたやすいということは、ご自宅で生活を続けていただく上で大きなメリットだと思います。

中央区警固という街なかに、交通の便のよい場所に、私たちの病院がある。

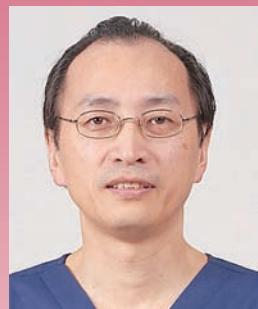
そのことが患者さんにとつて大きな意味を持つ場面があるということを感じます。そして地域に根ざす緩和ケア施設として、住民の方々のお役に立てることに誇りを持つと同時に大きな責任も感じています。2歳の誕生日を目前にして、私たちにできることを見つめ直しながら、よりよいケアを提供できるよう努めて参ります。

緩和ケアの日々 センター開設から2年を振り返って

副院長
診療部長
緩和ケアセンター長
医師・医学博士
永山 淳
ながやま じゅん



千一夜医話



院長・医学博士
秋本 亮一
あきもと りょういち

感染症の話



かつては伝染病といわれていた感染症。19世紀から20世紀の医学はこの克服に費やされたといつても過言ではありません。コッホ、パストール、志賀潔、北里柴三郎など著名な医学者の功績により、多くの感染症は克服されました。世界中で不治、悪魔の病気と恐れられてきた天然痘はジェンナーが種痘法を発見したことを契機に駆逐され、1980年にはWHOが根絶宣言を発したほどです。

感染症は細菌やウイルスによって伝播されます。その予防の基本は免疫です。予防接種はその免疫力を人為的に刺激したり高めたりする方法です。また感染症の治療は、細菌に対しては抗生物質の投与、ウイルスの感染に関しては最近になつていくつかの抗ウ

イルス剤で対処できるようになつてきました。しかしながら交通機関が著しく発展し人の交流が盛んになった現代では、一つの国のみで予防や治療を行つても十分とはいえなくなっています。

たとえば「はしか(麻疹)」は欧米では予防接種が徹底しほぼ根絶されていますが、予防接種率が低下している日本の若い人たちが欧米に旅行し感染源となつていることが、国際的な問題になっています。なぜなら最近の日本では予防接種の副反応を嫌つて接種を希望しない親が増えていくからです。これは人類と感染症との闘いという視点からみると大きな問題だと思われます。



それでは、健康で幸せな生活を求めるために私たちはどうしたらしいのです。

思われた細菌感染症ですが、耐性菌（抗生物質が効かない菌）が出現したり、免疫力が低下した方に弱毒菌が病原性を持つたりして、今なお闘いのさなかです。抗ウイルス薬も次々と開発されてきてますが、新種のウイルスが出てくるため、なかなか追いついていません。メキシコで発生したといわれる新型インフルエンザ（H1N1）

は、あつという間に世界中に広がっています。毒性がもつと強いといわれている鳥インフルエンザ（H5N1）は今のところ局地的な発生で収まっていますが、これも世界中に広がる可能性を持つています。残念ながら感染症の脅威はまだ人類から遠のいていないのです。

答へは、今ある予防・治療方法を正しく用いて、感染症が厄介な問題にならないようにすることです。具体的には予防接種を正しく受ける、日常生活では睡眠と栄養をしっかりとる、手洗いをするなどで、「咳エチケット」も有効です。そして薬は正しく使うこと。このような基本的なことをきちんと実践することが、非常に大切なのです。



映画つてほんとだ。

先日緩和ケアの患者さんとの会話の中で、映画館での昔の体験談で盛りあがり、楽しい時間を過ごしました。同じじう回は、最近観た映画の感想を紹介します。

最初の映画は「ミルク」。1970年代のアメリカで、同性愛者であることをカミングアウト（公表）して公職に就いたアメリカ初の政治家ハーヴィー・ミルクの実話を基づく物語です。ソーシャルワーカーの援助技術のひとつにソーシャルアクションがあります。制度などの改善のため行政や議会へ働きかけたり、世論を喚起して行動したりすることですが、なんどミルクはゲイの人権解放に立ち上がり、ゲイだけではなく社会のマイノリティ（少數派）の共感を得ていきます。彼の大膽さや繊細さ、社会と闘う勇気や喪失感などが伝わる奥深い作品です。

主演は、この映画でもアカデミー賞主演男優賞を受賞したショーン・ペン。私が彼を観たのは「アイ・アム・サム」以来でしたが、この作品では知的障害のある父親（S・ペン）には幼い娘を養育す

る能力はないと判断したソーシャルワーカーが娘を保護します。引き離された娘を取り戻そうと奮闘する父と娘の愛を描いた感動作です。

子どもを取り戻すといえば、クリント・イーストウッド監督の「チエンジリング」。1928年のアメリカでの歳の男の子が行方不明になり、5か月後に発見され戻ってきたのは別人だったという、これも実話に基づく物語。ずしりと重い内容ながらも映画としての完成度の高さと、強大な権力に立ち向かう母の強さを感じさせる傑作です。

誌面の都合で割愛しますが、夫婦の愛と絆を描いたアイルランド映画の「D.S. アイラブユー」や、アバの名曲でハッピーな気持ちになれる「マンマ・ミーア」なども私の中での傑作です。私の場合、映画はDVDよりスクリーンで観るほうがあずつと記憶に残るし、印象に残った映画の話をする時は夢中になります。みなさんも映画を観た後は、後の会話で2倍楽しみましょう！



企画室長
医療ソーシャルワーカー
社会福祉士
精神保健福祉士

内田 浩稔
うちだ ひろとし

てきぱき&ハキハキ あふれる笑顔で まわりもハッピー



緩和ケアセンター
看護副主任
石橋 穂積
いしばし ほづみ

5F病棟（緩和ケアセンター）の看護副主任を務め、背が高く後ろ姿もかっこいい石橋さん。いつもハキハキと元気がよく、後輩からも頼りにされるお姉さんの存在です。アロマセラピーに興味津々で、家では大好きな香りに癒されてあのパワーが生まれるんだとか。プライベートでは大好物のパンや蕎麦を求めていろんなところに出かけたり、最近飼い始めたうさぎの散歩に行ったりとかなり充実しているよう。この6月には結婚も決まっていて、表情にも幸せオーラが満ちています。癒されたい方は、石橋さんの元へどうぞ！

紹介者：ぎんちゃん

つい頼りたくなる お母さんの包容力に 満ちています♪



看護師
川原 知子
かわはら ともこ

外来でピカイチの美貌を誇る川原さん。一児のママでもあり、「○☆ちゃんのお母さんですね」な~んて患者様と話をしている姿を見ると、「さすが地元密着だな」と感じちゃいます。そうそう、あの端正な姿とは不釣り合いな（？）博多弁で話す姿に親しみを感じておられる患者さまも多いんじゃないでしょうか？ともあれ、短い勤務時間にもかかわらず外来の看護師としてきっちり働き、家庭では頼れるお母さん役を果たす姿は、私たちスタッフにもよい刺激になっているのです。

紹介者：湯水のようにお金を使いたい女



同僚や先輩、後輩が職員の素顔を紹介します。
今回の主役は、周囲の信頼も厚いベテラン看護師。
さて、どんな話が聞けるでしょうか。

スタッフの横顔

Information of AKIMOTO

Medcial news

福岡市の特定健診(メタボ健診)は秋本病院でも受診できます

平成20年度から始まった特定健診は、メタボリックシンドローム(内臓脂肪症候群)に着目した生活習慣病予防のための新しい健診です。40歳から75歳未満の方が対象で、福岡市国民健康保険の方は保険証(受診券不要)とワンコイン(500円)で受診可能。当院をはじめ、ご自宅の近くの医療機関で実施しています。



秋本病院
健診センター長
秋本 千賀子

◎健診内容

身長・体重・腹囲測定・血液検査(中性脂肪、コレステロール、空腹時血糖、肝機能等)・尿検査・血圧測定・問診等

※結果に応じて、生活習慣改善のための保健指導(無料)があります。

※65歳以上の方は「介護予防健診」(無料)も一緒に実施します。

◎受診場所

保健福祉センター(福岡市全区)、健康づくりセンター(中央区)、実施医療機関(全区)

◎受診方法

希望する受診場所を選び、電話で事前予約してください。

※詳しくは保険証送付時に同封されている受診案内チラシをご覧ください。

◎費用

500円

※満70歳以上の方、市民税非課税世帯の方(要証明書)は無料です。

◎受診期間

平成21年4月1日～平成22年3月31日
※受診できるのは1年度に1回です。

◎お問い合わせ

福岡市国民健康保険ご案内センター
☎092-711-4266(月～金 10時～17時)

秋本病院は「福岡市特定健診」をはじめ「福岡市がん検診」等の実施機関です。自分の体の状態を見つめなおすために、年に1度の健康診断を心がけましょう。なお昨年度は年度末の駆け込み受診が目立ちました。大切な健康状態についてゆっくりお話しさせていただくためにも早めの受診をおすすめしています。

当院で実施している検診例

胃がん検診(満40歳～1800円)、乳がん検診(満40～49歳・1500円、満50歳～1200円)、大腸がん検診(満40歳～500円)、前立腺がん検診(満55歳～1000円・10月と2月のみ)、肝炎ウイルス検査(満20歳～無料)



福岡市特定健診
イメージキャラクター
よかろーもん

Medcial news

インフルエンザ感染予防のため「咳エチケット」にご協力ください

新型インフルエンザの世界的流行が心配されています。当院では、すぐに実行できる感染予防方法として「咳エチケット」の徹底をお願いしています。また当院スタッフもマスクをつけさせていただく場合がございます。皆さまの理解とご協力をお願いいたします。

咳エチケットとは?

- 咳やくしゃみの際にはティッシュなどで口と鼻を押さえ、まわりの人から顔をそむけましょう。
- 使用後のティッシュは、すぐにフタ付きのゴミ箱に捨てましょう。
- 症状のある方はマスクを正しく着用し、感染防止に努めましょう。

Palliative care unit event

緩和ケア病棟でお花見をしました

警固公民館のご好意により今年の春も緩和ケア病棟のお花見会をすることができました。例年なく早い開花となったため、予定を早めて3月23日(月)午後に患者さんとご家族と一緒に公民館へ。用意したお茶とお菓子をいただき、満開の桜のもとでおしゃべりをしたり記念撮影を行ったりと和やかなひとときを過ごしました。



Staff personnel changes

人事異動のお知らせ

この春の人事異動についてご報告いたします。新任と入職の職員は2ページで紹介しております。

◎昇格・兼任・異動

永山 淳：緩和ケアセンター長 → 副院長、診療部長兼緩和ケアセンター長
野村 春美：看護部長 → 看護部長兼緩和ケアセンター看護師長

小宮奈津子：一般病棟看護主任 → 一般病棟看護師長

西岡 景子：消化器内視鏡センター・健診センター、手術フロア看護主任 → 消化器内視鏡センター・健診センター、手術フロア看護師長

西原 良子：外来看護主任 → 外来看護師長

黒川 恵美：緩和ケアセンター看護主任 → 消化器内視鏡センター・健診センター、手術フロア看護主任

入舟 亜矢：一般病棟看護主任

荒木 淳：外来看護主任

和田 優子：緩和ケアセンター看護主任

石橋 穂積：緩和ケアセンター看護副主任



編集後記

日本の夏。風鈴、セミの声、かぶと虫、そうめん流し、かき氷、海水浴、スイカ割り、終戦記念日、灯籠(精霊)流し、蚊取り線香、盆踊り、花火。なぜか夏は大切な記憶がいっぱいいつまっているような気がします。今年の夏もいい思い出がつくれますように…(内田)

秋本病院ブリーフレター Vol.42 2009年6月発行
発行者／秋本亮一 発行所／医療法人AGIH 秋本病院
〒810-0023 福岡市中央区警固1丁目8-3
TEL.092-771-6361 FAX.092-771-9984



医療法人 AGIH
秋本病院

日本医療機能評価機構認定病院
消化器内視鏡センター・健診センター
緩和ケアセンター

<http://www.akimoto-hospital.jp>